時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報

第三千五百九十三號　金曜日
明治廿六年三月三日
舊曆癸巳正月十五日
月出午前六時十分　入午後五時三十七分
月出午後六時十三分　入午前六時三十四分
滿潮午前二時二十分　午後二時二十一分
（西曆一千八百九十三年）

時事新報定價
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價郵送料廣告料は左の如し
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜休刊
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料（前金）

	一行五號活字廿四字詰	一行ニ付
一日限	一日以上七日以上	十三錢
六日迄	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付
東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を飾るより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんみとを請ふ

時事新報

傳染病研究所の補助費

北里博士の傳染病研究所補助費の建議案は政府の採納する所と爲り內務省より追加豫算案として更に議會に提出して兩院共に異議なく通過したるに付ては博士の事業もみれより面目を改めて次第に盛大を致すみとならん既に今日に至るまで芝の公園地內に研究の端緒を開き彼の新製のチヘルクリンも製造し了りて之を動物に試驗して違はず、二月上旬より肺患者に施して昨今は最早や三週を經過し成蹟尙は未だ詳ならざれども今日までの處にて博士の目的に齟齬したる者とてはなく施療の爲めに發熱せず煩悶せず何等の苦痛を覺えずして病症は少々づゝ輕快に赴くが如しと云ふ抑も微菌學の事たる蓋に數年來の新發明にして特に今回新製のチヘルクリンの如きは世界中に其製法用法を知る者なく唯われを知る者は獨り博士の元祖たる獨逸の大醫コッホ氏以下三五名の高足弟子にして其一名は即ち北里柴三郎氏なれば目下ふの學を研究して實地に施すものは西洋にて獨逸、東洋にて日本の二國あるのみ左れば微菌學の區域は國より肺患療法のみに止まらず凡そ人身體の甲より乙に傳染す可き性質のものなれば是れまで傳染病外に飲へられたるものにても之を豫防し之を治療するの目的にして其試驗上に著々實効を示し遂には全世界の醫學を一新せんとするの勢われも亦阿分の大なるに拘はらず發明の最も新にして知る者の最も少なきが爲めに尙は未だ廣く信用を博するに至らず實驗に徵して理を明にすれば信ずるみとなかるべし敢て待べからず左ればとて百千年來研究に研究を積重ねたる醫學の一新說を以て其根底より動搖せんとは人情に於て堅はさるを得ず蓋し火器の發明に際して弓矢を棄るに躊躇し汽車の既に走るを見ながら駕籠の料を忘るゝみと能はざりしは歷史の顯る所

官報

〇陸軍省令第二號
明治二十三年四月當省令第十號陸軍給與令創制餘貢ノ部中左ノ通改正ス
明治二十六年三月二日　陸軍大臣伯爵大山巖

第十六條本文中傳令ヲ「時宜ニ依リ陸定官內ニハ文官支拂スルコトヲ得」ニ改メ及ヒ左ノ一項ヲ加フ
測量班ヲ設ケタル要塞要港ニ測量班ヲ設ケタル要塞要港ニ準シ樣貸ヲ給ス
同條第一項中「十五」ヲ「十二」ニ改ム
陸軍省令第二號參照
陸軍給與令第十號（明治二十三年四月一日）抄錄
第九章　旅費
第十六條　陸地測量及修技所生徒測量旅費ノ額ハ出張セシル者ハ左ノ各項ニ依リ乙科ノ旅費ヲ給ス但測量班ヲ設ケタル要塞要港ニ測量班ノ者モ亦本條ニ準シ樣貸ヲ給ス
一　在京ノ地ヨリ測量場ヲ測量班作業知界內ニ在ル場所ヲ除ク）ニ到ル往返及測量地歸路ニ分別シルトキ甲號ヨリ乙班ニ轉スル旅行ハ陸路十里餘ニ付一圓六十錢ヲ給ス但シ一里以上六里未滿ハ半額六里以上ハ全額トス但海路ニ渡ラレハ渡海賃ヲ給ス地方ハ之ヲ陸路ニ換算スヘシ
第十一條　第一條ニ準シ船舶ヲ用ヒ上二十圓以下ノ前金ニ當ス
〇內務省告示第十四號
一日本銀行當御菓子登國（一國紙幣模造）登行人未詳右出版物ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス
明治二十六年三月二日　內務大臣伯爵井上馨
〇警視廳告示第十一號
青森縣ヲ於テハ當府下ヨリ牛羊由羊ノ輸入停止ノ處置ヲ取引ニ付テハ本月十日解除ノ旨通知アリ
明治二十六年三月二日　警視總監園田安賢

のみならず近く我醫道の沿革を見ても漢醫世界に洋醫の入るみと頗る困難なりしは今尙は故老の記憶する所なり恰も人情世界の約束にして怪しむに足らず雖も如何せん有形の眞理原則中には人情の運動を許さず今日の微菌學その發達尙ほ幼稚にして大に嗤らず之を從前の醫學方向は既に已に明白にして等ゝ可らず之を從前の醫學に比較して一言以て其異なる所を評すれば前者は發達を見て治法を處したるに微菌學醫は一歩を進め其症を發する所以の原因を捕へて之を制せんとするものなり或は微菌學者と雖も今正に研究の最中、偶然の間違より一朝に連城の璧を得るみとあれば千幸萬若數年の勞を空ふして失望に終る事もわらんいよ〳〵其目的を達して定めて新醫術の基礎を立て〳〵世界に公言し以て舊醫を壓倒し了るの日は我輩われを知らずと雖も人事の進歩駟馬に鞭つの今日案外の速成を見るやも亦知る可らず兎に角に醫學社會の人々は斷じて情を離れて理に就き他年一日今の漢醫流の境界に陷るなからんみと我輩の切に勸告する所なり曾て醫士その人の利害のみならず我大日本國の醫道をして文明諸國の競爭場裡に先鞭を着けしひるの機會は正に今日に在り我輩は一刻の光陰を惜しひ者なり

雜報

〇黃檗宗の紛擾　黃檗宗にては昨年來管長多々羅觀輪氏と宗務總裁吉井虎林氏等の事務員との間に紛爭の端緒を開き互に相睨視して今にも破裂せんず模樣ある由は已に過日の紙上にも記する所ありしが尙は開くに其軋轢も日に增し甚しく容易に調和するの見込なきのみならず益々衝突を甚しふし終に管長多々羅氏は執事岡田惟榮氏を專僚惡謀として改革斷行の計畫を爲したる末宗務總裁吉井虎林氏等の總事務員へ辭職の勸告に及びて非常の激論を生じ果ては腕力沙汰さへ湧れ聞ゆるに至りたる上去月十八日に及びて宗務總裁吉井氏を始め教學監、執事、會計等の事務員十三名へ斷然依願差免本職若くは差免本職との辭令書を交付し夫と同時に前執事の岡田惟榮氏を抵擲して臨時事務取扱長と爲し他に九名の臨時事務取扱員を新任したる後其旨を末寺一般へ告示し且つ昨年中宗務總裁吉井虎林が天皇院及び信徒等に誓し不正の契約を爲したるより本山維持法及び負財債却法に關し執事の指揮其宜しきを得ざるを以て去る一月總執事へ辭職すべき旨諭告したるも其命に服從せざる者あるを以て宗制に基き宗務總裁以下各執事を差免して一時臨時事務取扱を命じたり就ては追て公平なる下問案を出し末派の多數に依りて本職員を設け善後策を講ずべしと諭告し又宗務院章等を更印して此印章なき者は正當の告達に非ざる旨をも告示せしが一方の吉井氏等も亦固く執て免職の辭令書を受付けざるのみならず管長が宗制の範圍を脫したる此の如き不法の免職辭令を受くるの理由無し若し强て斷行せんとせば確乎狀を具申して內務大臣の裁定を仰ぐの外無きなりと拒絕したる末同月二十二日俄然たる宗務總裁吉井虎林執事長篠崎大雄の兩名連名を以て全國の末派取締及び末寺一般へ報知の顚末を詳記したる申告書を發し且つ宗務院より發する告達にして從來使用の印章若くは制印無きものは正當に非ず又宗務院宛の書類は總て宗務總裁吉井虎林宛にて發送すべき旨を通したるよし左れば今日は恰も二個の宗務院を設けたる有樣にて此紛爭も到底容易に落着せざるは勿論終には日蓮宗の二ツ舞を見るにも至るべしと云ふ

〇清國上海通信　（二月二十四日發）
清曆正月　去る十七日は清曆一月一日に相當し偶ゝ天氣晴朗一點の雲さへなかりしかば早朝より支那人年賀の客は續駕を着けて市街を來往し爲軍肩輿絡繹たるが如く貴功婦女の新衣を着飾て街道に徘徊する有樣は眞に目出度景はれたり又當地の商業は大抵支那人と關係あるを以て稅關銀行を始め各外國商館も皆休業せざるはなし左れば居留外人も皆天氣に乘じ或は家族と共に驅車郊外に遊ぶものあり或は馬に騎ちて大道を馳するものあり市中の賑ひ大方ならず支那人は平常休暇日少きを以て一月は長く休業するを例とせり尤も貴業は久しく其業を休むを得ざれば二日三日より開業するものあれども富家は十日頃迄でも休業するよしにて休業の長短を以て貴富を卜するもの〳〵如くなれば長く開業すると名譽とせり
入港汽船數　西曆一月中當地に入港せる汽船數は英百廿六、支那五十四、獨二十五、日本十二、米六、佛六、墨國一、計二百二十五隻なり
軍艦汽船の衝突　去る十一日午前十一時吳淞河口に於て佛國郵船〻開濟號は突然乳を生じ人水が種々手を盡ポンプを送りたるが一時は右佛船は墨日出場すべき日出場すべ

〇北海道室蘭港　年來海岸に沿て見分の上總代當するみと〳〵るよし
〇後志國寶都　北洋社氣船第られたるよし
〇松幌機測量　蘭と呈出せし して測量せし
〇千葉縣　印 て一昨日より
〇足利無物　正月休暇のた 入も餘り急が のため賣病物 り取引にな 等の賣買あり
〇越後直江津

〇地方　海關稅收入比 ール文昨年 て一昨年に比 は長江沿岸の せしを以て前 も右の如く昨 下落の爲め外 格上昇し內地 海關稅收入比 稅る者あり し日々居留地を 人民は大に之 て右等の事實 となく不安心 槪上昇し內地 天然痘流行 れども別に術 せず恰も自然 に病勢の如何 みなれども用 現日支那人に 稅る者あり し に不服者 見分の上總代 當するみと〳〵 るよし
〇後志國寶都 北洋社氣船第 られたるよし
〇松幌機測量 蘭と呈出せし して測量せし
〇千葉縣　印 て一昨日より
〇足利無物　正月休暇のた 入も餘り急が のため賣病物 り取引にな 等の賣買あり
〇越後直江津